

『ニッソーネットのふくし通信』

vol.2 2010年8月

年々増加する認知症高齢者のために知っておきたい ～認知症の理解とそのケアについて～

福祉の人材サービスおよび育成を行う株式会社ニッソーネット(本社:大阪市北区、代表取締役社長 山下 謹吾)は、2010年4月より、介護に関する情報をわかりやすくまとめたニュースレター「ニッソーネットのふくし通信」を発信しております。

【第2号の内容】 認知症高齢者の数は年々増加傾向にあり、医療・介護現場で働くスタッフは、認知症に対する専門性と質の向上が求められています。ニッソーネットが運営する介護教室「ほっと倶楽部」では、今年3月・5月に「介護経験者向け・認知症セミナー」を実施しました。7月には、財団法人職業技能振興会が主催する、医療・介護現場で働くスタッフのスキル・アップを目的とした認定資格「認知症ケア指導管理士」の第1回試験が実施されました。総受験者数94名・合格率が80%強となり、「ほっと倶楽部」受講生からも5名が受験し全員合格しました。今後は、ますます認知症について勉強する方が増えていくと予想されます。そこで第2号では「ほっと倶楽部」で行われたセミナーの内容などをもとに、認知症の理解とそのケアについて分かりやすくお伝えいたします。

今回の内容に関してのご質問や、業界全体の動向など情報提供のご協力、ご取材のご依頼なども随時承っておりますので、お気軽にお問い合わせいただけると幸いです。



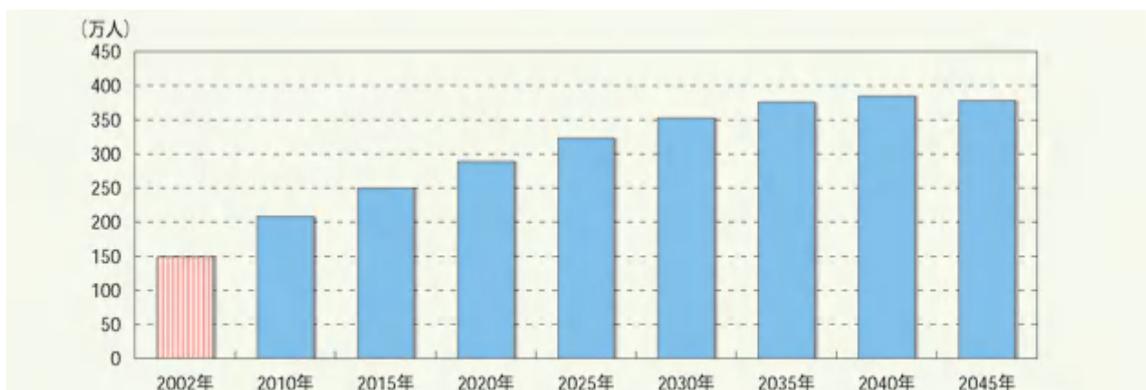
認知症とは？

認知症とは、正常であった脳の知的な働きが後天的なさまざまな病気によって、持続的に低下した状態のことを言います。初期症状は老人性うつに似ており、不安や戸惑いを感じたり、新たに覚えたことや見たものを忘れることがあります。

【物忘れと認知症の違い】

「物忘れ」とは、脳の神経細胞の減少や機能低下によって起こります。脳の神経細胞の減少は免れることのできない老化現象です。このような通常の老化による現象より早く神経細胞が消失してしまう脳の病気が「認知症」です。「認知症」と「老化による物忘れ」は、はじめのうちは区別がつきにくいですが、**大きな違いの一つとして、「認知症」が全てを忘れてしまうのに対して、「老化による物忘れ」は記憶の一部を忘れていているという点が上げられます。**

【認知症高齢者数の現状と将来設計】



資料：厚生労働省老健局「高齢者介護研究会報告書『2015年の高齢者介護』(2003年6月)
(注) ここでいう「認知症高齢者」は、認知症自立度Ⅱ(日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。)以上の者をいう。

■ 認知症の主な症状

基本症状	・記名、記憶障害 ・日時、場所に関する見当識障害 ・計算力の障害 ・理解力、判断力の障害
日常生活能力の障害	・着脱衣の障害 ・食餌摂取の障害 ・排泄行為の障害(失禁) ・入浴行為の障害
問題行動、精神症状	・徘徊、無断外出 ・昼夜逆転、不眠 ・独語 ・濫集 ・拒食 ・不潔行為(弄便) ・幻覚 ・興奮 ・抑うつ
身体症状	・歩行障害 ・寝たきり

◎ 認知症にはたくさんの種類があります。わが国で多いのは、アルツハイマー型認知症と血管性認知症ですが、近年、レビー小体型認知症や前頭側頭型認知症などの診断も増えています。さまざまな原因で起こる認知症のなかには、外科的な手術や内科的な治療によって改善が期待できるものもあります。

<認知症ケアについて>



■ 家族が認知症になってしまったら？

つじつまの合わない行動を繰り返す高齢者に対し、周囲の人はそれを責めず、あせらずに理解することが大切です。しかし、**認知症の方の性格・環境・症状などに応じて、介護を行わなければならないため、対応が難しい場合がありますので、注意が必要です。**

まずは、地域ケアサービスの利用に関する相談窓口(地域包括支援センター、社会福祉協議会、生活施設等の相談担当者、民生委員や小地域の社会福祉委員会など)に相談をするとよいでしょう。

人は誰も地域社会のなかで生活を営んでいます。認知症の人もそこにある地域の物理的資源(環境)や人的制度的資源(住民やサービスなど)を利用して生活を形成しています。その人が生活に支援が必要なとき、介護職員等は生活施設等の中でだけケアするだけではありません。**生活施設等がもつ居住空間以外の地域環境、家族や介護職員等以外の人たちとのかかわり合い、関係づくりが生活支援の大切な方法となります。**

■ 認知症の方に対する心理療法

回想法	昔使った道具などを用い、過去に経験したことを思い出すことで、脳の活性化を図ったり、コミュニケーションを深める手助けをする。
リアリティ・オリエンテーション	年齢など個人的な事柄や、日時・季節・場所などについての質問を繰り返したり、季節の風物や行事などについて話してもらう。症状の進行を少しでも遅らせたり、現実認識力の維持を図る。
音楽療法	懐かしい歌を歌ったり、歌に合わせてボールや打楽器を使ってリズムをとることで、記憶をよみがえらせる効果も期待できる。
バリデーション・セラピー	認知症高齢者に対して、尊敬と共感をもって関わる。お年寄りの尊厳を回復し、ひきこもりに陥らないように援助するコミュニケーション方法。
動作法	動作訓練を通じて、姿勢や緊張に気づいてもらい、発達の促進や心身の緊張緩和を図る。
アクティビティ・ケア	趣味・歌・ゲーム・手芸などをケアの一環として行い、喜びや楽しみを見つけて出して、生き生きとした生活を取り戻すことを図る。 (例:動物介在療法、園芸療法、化粧療法など)

担当講師よりコメント

「私は誰になってしまうの？」

アルツハイマー型認知症の方が、不安な瞳で私を見つめて口にした言葉です。

「認知症になると何もわからなくなる」という誤解がありますが、たとえ認知症になっても本人の豊かな感情は保たれ、同時に本人は自身の病気に悩んでいることが多いのです。認知症の方のケアは正しい認識をもつことが何よりも大切になります。そして地域の社会資源やケアサービスを有効に利用し、「ともに歩むケア」を進める必要があります。

ニッソーネットの資格講座で認知症ケアを学ぶことにより、実際のケアはもとより、認知症に関する啓発から地域資源のネットワーク化、まちづくりの一員として大きな役割を果たすことができます。実際に講座を受講された生徒さんからも「祖母の介護に活かせた」「家族の介護をしている友人に教えてあげたい」というお声をいただくことが本当に多くなりました。生徒さんの真剣に学ぶ姿を受けて、認知症の方の介護が将来のためではなく、今、必要だという切実な問題であると同時に認知症を有する高齢者の増加を実感しております。

ニッソーネット講師 青野 桂子



- ※参考資料 1. 財団法人 長寿社会開発センター発行 介護職員基礎研修テキスト 第4巻 認知症の理解と対応
2. ニッソーネット講師・坂井雅子 セミナーオリジナル資料

【会社概要】

介護職を中心とした福祉業界への人材サービスや、シニア人材サービスを行うほか、ホームヘルパーや介護福祉士などの資格講座を実施する「ほっと倶楽部」も運営。スタッフの資格取得から就業までをトータルにサポートし、高齢者福祉施設を中心に安定した人材の供給を図っています

社 名 : 株式会社ニッソーネット

代 表 者 : 代表取締役社長 山下 謹吾、代表取締役専務 山下 吾一

設 立 : 1999年9月 U R L : <http://www.nissonet.co.jp/>

資 本 金 : 1,000万円 売 上 高 : 23億(2010年1月期)

従 業 員 数 : 85名(2010年4月現在)

本 社 所 在 地 : 大阪市北区芝田1-4-14 芝田町ビル2F TEL:06-6375-2111(代) FAX:06-6375-1717

支 社 : 南大阪支社、神戸支社、東京支社、横浜支社、さいたま支社

【「介護教室ほっと倶楽部」の取組みと実績】



「ほっと倶楽部」では、様々な資格講座やセミナーを開催し、介護の人材育成を行っています。

- 資格講座: ホームヘルパー2級講座、介護職員基礎研修、介護福祉士、ケアマネジャー対策講座など
- 介護セミナー: 認知症の方への対応、リスクマネジメントなど

介護スタッフとして働きながら資格を取得できる、ニッソーネットの「資格取得支援制度」により、毎年1,000名以上の新人介護スタッフを育成し、高齢者福祉施設を中心に派遣・紹介しています。

＜本件に関するお問合せ＞

株式会社ニッソーネット 広報担当 大西 TEL: 0120-51-8739 E-mail: onishi@nissonet.co.jp

※取材のご依頼、情報提供のご協力も随時承っておりますので、お気軽にお問い合わせください。